



中由美子と 中国児童文学の世界

2022年11月1日に中国児童文学翻訳者である中由美子さんが亡くなりました。
中さんのお仕事を振り返り、中国語圏児童文学の魅力について語り合しましょう。

日時：2023年11月26日（日）13時30分～16時（13時受付開始）

会場参加・オンライン（Zoom）の併用

定員：会場60人、オンライン100人（申し込み先着順）*どなたでもご参加いただけます。

会場：大阪府立中央図書館2階多目的室

参加費：1,000円（会場参加の方はお帰りに中さんの資料を一冊お持ちいただけます）

お申込み：会場参加、オンライン参加とも、peatix（ピーティックス）でお申込みく

ださい。<https://nakayumikorec.peatix.com>

*peatixでの申し込みが難しい方は事務局まで
葉書かメールでご連絡ください。



プログラム（予定）

第一部 中由美子と中国児童文学（13時30分～14時45分）

中さんゆかりの中国児童文学作家の方々が中さんとの交流を振り返ります。

登壇予定：秦文君さん（作家、中日児童文学美術交流中心会長）等*通訳付

第二部 中由美子の翻訳世界（15時00分～15時45分）

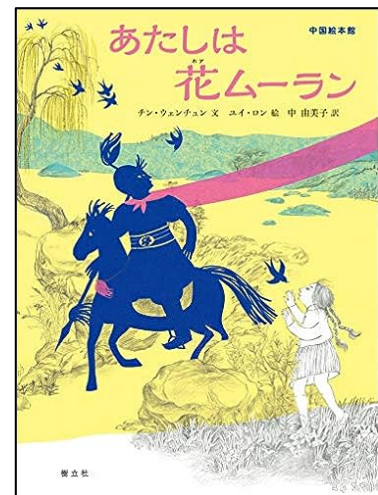
中さんの翻訳作品の紹介、その特徴について語り合います。

主催：日中児童文学美術交流センター・中国児童文学研究会
（一財）大阪国際児童文学振興財団（IICLO）

協力：大阪府立中央図書館

【中由美子さんについて】

1948年、長崎県生まれ。程璋『フランスから来た転校生』（佑学社、1988年）出版以降、本格的に中国語圏の児童文学、絵本を翻訳するようになる。1989年、日中児童文学美術交流センターの設立に参画し、理事となる。のちに副会長。温厚で親しみやすい人柄と中国語能力の高さから中国と日本の子どもの本の関係者からの信頼も厚く、双方をつなぐ窓口的な役割を果たす。主な訳書に陳丹燕『ある15歳の死』（福武書店、1990年）、李潼『カバランの少年』（てらいんく、1998年）、曹文軒『サンサン』（てらいんく、2002年）等多数。近年は秦文君『あたしは花ムーラン』（樹立社、2020年）など中国語圏の絵本を精力的に翻訳紹介していた。遺作は、『小学館世界J文学館』（2022年11月）収録の曹文軒「トンボの眼～フランスから来たおばあちゃま」（電子書籍）。



お問い合わせ

日中児童文学美術交流センター事務局

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4丁目698-1 大阪教育大学教員養成課程成実朋子研究室

TEL: 072-978-3533 E-mail: narumi@cc.osaka-kyoiku.ac.jp (成實)